平和博物館国際ネットワークのニュース

780−0861 高知市升形9−11 平和資料館「草の家」

Tel.0888−75−1275・21−0263 Fax. 0888−21−0586

GRH@ma1.seikyou.ne.jp http://ha1.seikyou.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori/

館長:西森茂夫 国際交流部: 山根和代

ミューズ No.4 (平和のための博物館市民ネットワーク通信)

発行:2000年11月 事務局:平和資料館・草の家(高知市升形9-11)

Tel: 088-875-1275. Fax: 088-821-0586 コーディネーター 西森茂夫

Eメールアドレス:GRH@ma1.seikyou.ne.jp

ホームページ:http://ha1.seikyou.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori/

海外の平和博物館

国際交流部 山根和代

海外の動きについて、お知らせします。平和博物館国際ネットワークのニューズレターの発行が遅れていますので、その紹介は次号でしたいと思います。

＊ 拒否されたオランダ展:「日本の平和博物館は、どうなっている?」と問い合わせ

オランダ国際関係研究所のロバート・アスペスラ博士から、「日本占領下のオランダ領東インドの記憶」というオランダ展が、日本の平和博物館で拒否されたことに対して、次のようなお便りがありました。(なおオランダ展の詳細は、「世界」4月号に中尾知代氏の「拒否されたオランダ『戦争』展」という論文でわかります。)

森首相の『神の国』発言は、驚くべき内容です。「日本占領下のオランダ領東インドの記憶」の展示が、日本の平和博物館で拒否されたことを非常に悲しく思います。

その展示はとてもバランスの取れた内容で、日本人の声もオランダ人と同様に含まれていました。このような良い内容の展示が日本の平和博物館で受け入れられないとしたら、私達に何ができるのでしょうか?日本は「神の国」だから、戦争をし他国の人々を殺したり、監獄や強制収容所に入れたりする権利があったとでも言うのでしょうか?これが平和博物館を通して行う平和教育なのでしょうか?オランダでこの展示を公開したとき、日本の大使はこの展示を見ることを拒否しました。

御存知のように、私は日本人に敵意を持っているわけではありませんが、このようなことは恥ずべき行為でと思います。…被爆者の展示も加えてオランダ展をするそうですが、それでは被爆の問題に焦点が移ってしまうのではないでしょうか。被爆の問題を出して、日本の加害の実態を隠すべきではありません。オランダ展は、他の展示を加えないで、そのまますべきだと思います。

ロバートさん自身子どもの頃、東インドで日本軍強制収容所に入れられたという辛い体験をされています。日本の平和博物館では、公正な内容の展示をしてほしいというお便りです。現在日本の各地でこの展示がなされていますので、関心のある方は御連絡下さい。

＊ スペインに平和博物館が12月に開館:「草の家」をモデルに

今年の2-3月スペインのハウメ一世大学(Jaume I)平和学・開発学修士課程で、山根は平和の文化について集中講義を担当しましたが、その時の受講生であるナティヴィダッド・フォルティさん(Ms Natividad Fortea: 教員)が平和博物館を開館することになりました。スペインの東部カステリョンにある**La Vall d'Uixo** に古い王宮があり、そこに平和博物館を12月に開館する予定です。「草の家」の活動をモデルにしたもので、開館の際被爆者の写真展示をしたいので協力をしてほしいという要請がありました。「草の家」では、スペイン語に訳して寄贈することを検討しています。

またナティさんから、「ヒロシマの火」(山口勇子著、山根和代英訳:草の家英文ブックレット)やピースアニメ「つるにのって」のスペイン語訳にも取り組みたいという嬉しいお便りが来ています。

ナティさんは「草の家」の活動を知り、たとえ小規模でも平和、環境、人権、開発など様々な問題に取り組んでいる姿に共感。平和の文化を創造していくために、地域の芸術家も含めた幅広い活動を目指しています。

このことは、たとえどこの国であろうとも、地域の特色を生かしながら、平和博物館の豊かな活動が可能であることを示しているように思えます。

＊ インドに反核の平和資料館

1998年第3回平和博物館国際会議に参加されたインドのバルクリシュナ・クルベイさんは、インド中央部のナグプール市に平和資料館を開館されました。インドとパキスタンの核実験で危機感を持ち、広島と長崎の被爆者の写真を集め、原爆の被害を伝えておられます。「平和のための博物館市民ネットワーク」の英文ニューズレターを送ったところ、お礼状と日本の平和博物館と交流をしたいというお便りがきました。

Dr. Balkrishna Kurvey:

iipdep@nagpur.dot.ne.in

Indian Institute for Peace, Disarmament & Environmental Protection: 537 Sakkardara Road, Nagpur 440 009 India

＊ 第18回国際平和研究学会に参加して

国際平和研究学会(International Peace Research Association: IPRA)の国際会議が、8月5-9日、フィンランドのタンペレで開催され、約60カ国から400名参加しました。**テーマは「21世紀における平和研究の課題—文明の対立から対話へ」**で、開会式ではフィンランド女性大統領のターリャ・ハロネン氏が挨拶をされました。

分科会として、紛争解決、平和文化とコミュニケーション、東ヨーロッパ、環境保護、地域紛争、人権擁

護、非暴力、平和教育、平和歴史、平和運動、平和理論、宗教と平和、安全保障と軍縮、女性と平和があり、その他特別分科会(先住民問題など)も充実していました。発表原稿(英文)は、IPRAのホームページで読むことができます。

http://www.copri.dk/ipra/ipra.html

私は**「平和の文化とコミュニケーション」分科会**の役員会に出て、「平和の文化国際フォーラム」(IFLAC: International Forum for the Literature and Culture of Peace)と平和博物館国際ネットワークが連携して活動することを提案しました。またその分科会で発表や司会をしたり、また「平和歴史」分科会では高知の女性の平和運動について発表しました。「平和のための博物館市民ネットワーク」の英文ニューズレターである"Muse" の紹介をすると、多くの人々から読みたいので送ってほしいという反応がありました。改めて、平和博物館への関心の大きさを感じました。

アジア支部:APPRAという国際平和研究学会のアジア支部があり、「女性の搾取に反対する第三世界運動」(Third World Movement Against the Exploitation of Women)代表のMary Soledad Perpinanさんが、代表に選出されました。来年12月にマニラでアジア支部の会議をしようと話し合いました。

総会では、事務局長に三重大学の児玉克哉氏が選出され、また理事(世界で22名、アジアで4名)も選出されました。そこで山根も選出され、インターネットを通して、会議に参加しています。

＊ ノルウェーのノーベル研究所で平和歴史学会の会議

「平和な21世紀へ」というテーマで8月11-12日に会議が開かれました。毎年ノーベル平和賞が受賞される所が会議場でした。「平和の文化へ」の会議では、英国ブラッドフォード大学のDr. Peter van den Dungen が司会をされ、山根は「平和文化創造のやり方」を発表し、「草の家」の活動も紹介しました。高知の平和主義者の言葉(英訳も)が載っている「自由・平和・友愛の栞」がとても好評で、南米からの参加者が母国で同じようなしおりを創ってみたいと話していました。

ノーベル研究所では世界各地から平和に関する情報を収集していますが、その資料の保存をしている図書館をAnne Kjelling さん(平和博物館国際ネットワークコーディネーター)が案内して下さいました。

日本の子どもは学習漫画でノーベルの生涯を学ぶことがあると述べたところ、ノーベル研究所にその本を置きたいとのこと。早速寄贈したところ、日本語はわからなくても、絵で内容がわかったというお便りがきました。

＊ オスロの抵抗博物館へ:Norway's Resistance Museum

ノルウェーは、1940-1945年ナチスに占領されましたが、抵抗運動をした人々について博物館があり、行ってみました。1970年にAkershus Castleというお城に創られましたが、そこはノルウェーの愛国主義者がナチスに処刑されたところです。ノルウェーの若者が、ドイツ占領下の生活を知ることができるようにするために、開館され、これまでに250万人の訪問者がありました。イギリスのニュースを入手するために、歯茎にBBC放送受信装置をつけたり、またトイレットペーパーに伝言(顕微鏡で読む!)を書いて抵抗運動をしたことを知り、大変驚きました。

Norges Hjemmefrontmuseum: Norway's Resistance Museum at Akershus Fortress

開館時間:10月1日―4月14日 月―金:10-15時 土日:11-16時

電話:23 09 31 38(季節により、開館時間が異なります)

＊ アメリカ:「刀を鋤に」ピースセンター&美術館

(Swords into Plowshares Peace Center & Gallery: the Arts for Peace)

ミシガン州では、子どもが銃で子どもを殺すという悲劇的事件がありました。デトロイトの平和博物館では、本物の銃やおもちゃの銃を持って来ると、その代わりに平和的な贈り物を渡すようにしています。持ってきた銃は、2000度の高温の中で、銃として使えないようにし、さらにそれで芸術家が作品を創造しています。「芸術は、社会の希望、夢、価値、恐怖、想像を作品で表現します。芸術の目的のひとつは、社会の間違いを指摘することです」とその取り組みをしている芸術家は述べています。

日本でも親は、男の子にピストルや刀などのおもちゃを与える傾向があります。平和博物館で、戦争を賛美するようなおもちゃを回収して、平和につながるようなものと交換するのもおもしろいかもしれませんね。

＊ イギリスのMothers for Peace:ベリルさん夫妻、再び高知へ

昨年の秋「草の家」に来られたMothers for Peace（平和のための母親達)のベリル・ミルナーさんと連れ合いのアリステアさんが、再び高知に来られました。今年も美味しい御馳走を囲んで、交流会を開きました。

お二人ともクウェーカー教徒ですが、昨年の訪問後「草の家」に関する記事をクウェーカー教徒の 冊子、The Friendに大きく紹介して下さいました。

イギリスでは平和博物館を創る活動がありますが、その動きの中で「ナヌムの家」の展示をしてほしいという依頼をしたところです。

＊ イギリス:国際平和センターに平和博物館を

ブラッドフォードに国際平和センターを創り、その中に平和博物館やピースガーデンを作ろうという動きがあります。2002年には開館の予定です。その計画をされているPeter Nias さんと、フィンランドで開催された国際平和研究学会で会いました。今年は平和の文化国際年のため、イスラエルのDr. Ada Aharoni(テクニオン大学教授、作家、詩人）を招待して講演会を開催しました。ブラッドフォード大学平和学部と連携を取りながら、充実した内容の平和博物館を創る予定です。なお下記のようなニューズレターを発行しています。

“Friends of the Peace Museum: the Newsletter of the Peace Museum”

The Peace Museum Office, Jacob’s Well, Manchester Road, Bradford BD15RW

Tel: 01274 754009. Fax: 01274 780240. Email:

peacemuseum@bradford.gov.uk

Website:

www.peacemuseum.org.uk

＊ イギリス:平和を願う母子像

ウェールズのタリア・キャンベルさんから、グリーンナムコモン平和行進を記念した母子像についてお便りがありました。1981年カーディフカラ36人の女性、乳母車に乗った4人の赤ちゃん、6人の男性が、バークシャーのグリーンナムコモンへ平和行進をしました。そこにアメリカの巡航ミサイルを配備するので、反対の意思表示をするために出発しました。テレビで政府代表と議論することを要請し

ましたが、拒否されたため、そこにテントを張って2000年まで抗議活動をしました。このような活動を記念して、母子像がAnton Agius という彫刻家によって創られました。母親は子どもを抱いていますが、その子どもは平和の鳩を抱いています。詳細は、下記の所に連絡すると入手できます。

“WFLOE Greenham Sculpture” Glangors, Ynyslas, Borth. Ceredigion. SY245JU

Tel. 01970871360 or 0796815968

＊ アメリカ:コールゲート大学でコソボ難民写真展

ニューヨークにあるコールゲート大学のアントニア・ヤング(Antonia Young)さんからお便りがありました。彼女は大学で、バルカン問題の講義をされています。お連れ合いのDr. Nigel Young は、同大学平和学センターの所長ですが、大学図書館で写真展をしました。写真はアントニアさんが撮られたもので、戦争前の平和な田舎の光景と、空爆後のものが対照的に展示されました。写真では、苦しみが多い中でも人間の尊厳を忘れないで生きる人々が表現されています。

＊ 戦争で破壊されたバルカンに、平和公園を

上記のNigel さんとAntonia さんの娘さんであるLucy Young さんによると、アルバニア、モンテネグロ、コソボの山に、平和公園を創る構想があります。平和公園の概念は決して古いものではなく、例えばノルウェーとスウェーデンの国境にMorokulien Peace Monument があります。世界でも大きな非軍事地帯のひとつです。バルカンでも同様に、平和公園を創り、紛争の平和的解決、自然保護、ユニークな伝統の保護を目指したいと述べています。

(連絡先)

Antonia Young: Peace Studies, Colgate University, Hamilton, New York 13346 USA

＊ イタリア:国際平和主義者ポスター資料館

Dr. Peter van den Dungen のお便りによると、イタリアのボローニャにある国際平和主義者ポスター資料館は、平和ポスター展を主催したそうです。詳細は、下記に連絡するとわかります。

International Pacifist Poster Documentation Centre: Via Stalingrado 81, 40126 Balogna Italy

Tel: 0039 051 584513. Fax: 0039 051 583610

Email:cdmpi@iperbole.bologna.it.

なお50 Years of Peace in Europe: events and images というカタログに、平和ポスターがまとめられています。

＊ イギリスの児童書に「草の家」紹介

Time for Peace (著者:Janet Ganguli、出版社:Small World Publications、1999年出版)という児童

書に、高知の平和資料館「草の家」が紹介されました。

この本は、子どもがなぜ戦争が起こるのか、戦争を防ぐための取り組み、戦争をしないで問題を解決する方法などについてわかりやすくまとめています。その中に平和博物館の紹介があり、次のような内容です。

平和博物館

いま世界中で平和博物館のネットワークが広がっています。その他に、平和公園や平和記念碑もあります。以前平和を築くために活動した人々や平和運動について学ぶと、私達の身のまわりにある様々な暴力に反対し、平和な社会を築くのに、とても参考になります。

イギリスのブラッドフォードに、国際平和センターを創るというわくわくするような取り組みがあります。もうすでに様々な展示会や討論会、学校での取り組みが行われています。日本では「草の家」という平和博物館があります。その目的は、戦争がどのようなものであるのか、また平和の価値を人々がわかるように手助けをすることです。自然の破壊は、もうひとつの戦争であると考え、人々がもっと自然と調和した生き方ができるように援助することを目指しています。

（「草の家」のしおりに載っているイラストが、掲載されています。）

＊ インド：平和のための芸術国際会議

以前国連に勤務されていたウルスラ・マリア・ルーザーさんから、下記の国際会議について連絡がありました。

2001年2月11日―18日：インドのJodhpur で、第6回平和芸術国際会議が開催されます。また2月11日―3月3日まで旅行を計画しています。詳細を知りたい方、また参加されたい方は、11月はじめまでに下記に御連絡下さい。

（詳細及び登録用紙は、「草の家」にあります。お急ぎの方は、御連絡下さい。）

Dr. Ursula-Maria Ruser-Brauning: Charles-H. King Str. 21 D-, 14163 Berlin, Germany

Tel: 49(0)30.8090 7340. Fax: 49(0)30 8090 7342

Email:

Uruser@compuserve.com

＊「うちのおばあちゃん」(Unsre Oma)：ドイツのおもしろい児童書

上記のウルスラ・マリア・ルーザーさんから、ドイツの児童書が送られてきました。ドイツから来た郵便物から、日本語の本が出て来たので、驚きました。よく見ると、著者のインゼ・クレーベルガーさん（Ilse Kleberger）はマリアさんの友人で、日本語に訳されたものでした。

いつまでも若々しいおばあちゃんの物語は、ドイツで30年以上も読みつがれているとか。お使いに行くのに、ローラースケートをはいてびゅんびゅん乳母車を押していくおばあちゃんなんて、想像する

だけで楽しいですね。子どもに命令しないで、子どもたち自身が一番いい道を自分で見つけるように、それとなく導いてくれるおばあちゃんです。

平和博物館で、子ども達に読み聞かせたら、楽しいかもしれませんね。

「うちのおばあちゃん」:インゼ・クレーベルガー著、斎藤尚子訳、徳間書店、

2000年2月出版、¥1300

＊ ブラジルの平和博物館より

リオデジャネイロにある平和博物館から、交流をしたいというお便りがありました。主としてコンサートや詩の朗読など、顧問であるLuiz Goulart の援助を得て、活動しています。なお次の詩集が、送られてきました。

Ave Ferida: Poemas Pacifistas

by Luiz Goulart (1997)

連絡先は、次の通りです。

Maria Silvia Magalhaes de Souza, Secretary of the Museu da Paz:

MUSEU DA PAZ: Instituicao Pacifista Fundada Por Luiz Goulart

Rua Senador Dantas, 117-Cob.03 Centro 20034 900 Rio de Janeiro RJ Brasil

＊ 核抑止論を批判:ロバート・グリーン氏(元英国海軍司令官)

1996年国際司法裁判所で、核兵器の使用は国際法に違反するという判決が出されました。イギリスでそのような判決を引き出すために、世界法廷プロジェクト代表者として活躍されたロバート・グリーン氏から、核抑止論を批判した著書が送られてきました。今後日本語に訳されて出版されるそうです。ニュージーランドの女性首相であるヘレン・クラーク氏が、序文を書いておられます。

The Naked Nuclear Emperor: Debunking Nuclear Deterrence

by Robert Green

The Raven Press: Christchurch, New Zealand

＊ ドイツ:検問所が平和博物館に(Museum Haus Am Checkpoint Charlie)

以前ベルリンで検問所として使われた建物が、平和博物館の役割を果たしています。1993年に訪問したことがありますが、若者の訪問者が多いことが印象に残っています。そこから出版された資料が送られてきました。

Es Geschah An Der Mauer: It Happened at the Wall by Rainer Hildebrandt

1961年から1989年まで西ベルリン側の壁をめぐって起こった出来事の記録写真集。

From Gandhi to Walesa: Nonviolent Struggle for Human Rights by Rainer Hildebrandt

「ガンジーからワレサへ:人権擁護のための非暴力的闘い」-369枚の写真集。1993年

出版

Eine Welt ohne Mauer:「壁のない一つの世界」子ども達の絵画集。1999出版

Ein Mensch, Rainer Hildebrandt: Begegnungen: 上記の写真を撮られたRainer

Hildebrandt 氏に関する写真集。

＊ 台湾の大学から

輔仁大学のEdmund Ryden さんから、The Human Person as the Foundation of Human Rights (人権の基盤を築く人間)という本が送られてきました。1999年11月台湾の輔仁大学で、「正義と平和のためのカトリック司教会議」が開催され、その時の報告集です。英文で書かれています。

＊ 高知の被爆者写真展、広島平和記念館で

高知の被爆者(広島、長崎、ビキニ)の写真展が、来年広島平和記念館で行われます。パネル写真は、岡村啓佐さんの写真集に載っている写真です。他の平和博物館で展示したい方は、御連絡下さい。なお山根が説明文を英訳しましたので、海外での展示も可能です。

国内の状況を草の家に届いたお便りの中から要約してお知らせします。

Ⅰ　7月28日~29日、第30回空襲戦災を記録する全国連絡会神戸大会開催

　米軍資料に基づく各地の空襲の掘り起こし、記録、犠牲者調査、モニュメントの建立などがねばり強く続けられている。

Ⅱ　8月18日~20日、第4回戦争遺跡保存全国シンポジウム南国大会

　上記の全国集会が高知県南国市で開かれ、210名が参加。昨年の京都大会以後の活動を総括した。戦後55年たって、戦争体験世代が少なくなり、語り部がいなくなる中で、戦争遺跡を平和のガイドにするため、全国各地で保存運動が広がっている。平和博物館建設運動との連携もなされ、次の世代に戦争をどう伝えるかが熱心に話し合われた。

事務局は　〒380-0928　長野市若里3-5-5　きぼうの家　TEL026-228-8415にある

なお、次回の全国大会は川崎市平和館で行われる。

Ⅲ　兵士・庶民の戦争資料館（福岡県鞍手郡小竹町御徳415-13）では「遺品が語る戦争」展を6月1日~8月31日に開催しました。

Ⅳ　平和友の会、川畑康郎さんからの活動報告

今夏の大きな取り組みは、第20回平和のための京都の戦争展でした。特別展示となった「日本人・オランダ人・インドネシア人-日本占領下のオランダ領東インドの記憶」展は、日本ではじめてのものだったため、話題を呼びました。

日本-オランダ交流400周年実行委員会の記念行事のひとつとして、オランダ戦争資料館によって企画されたものですが、受け入れをめぐって様々な議論がある中で、京都で（会場は立命館大学国際平和ミュージアム）開催し、成功裏に終えることに、私たち平和友の会も一定の貢献を果たしました。

また、若い世代への継承という面で言えば、戦争展でも昨年に引き続きそのコーナーがつくられ、今後の礎が構築されましたが、今年2月結成集会を行った"世界の子どもの平和像を京都につくる会"の取り組みに会員は強く関心を持ち、"つくる会"も平和友の会に期待を寄せているのです。（友の会会長は"つくる会"代表を要請されました。）

前後しましたが、戦争展では教科書が語る「日の丸・君が代」の歴史展、一日平和学校、学習会、講演会など貢献しましたし、恒例の"安斎先生と行く平和ツアー"も大成功するなど、20世紀最後を飾った夏の取り組みでした。

Ⅴ　福島菊次郎写真資料館は8月15日に　山口県柳井市中央2-2-16龍輝ビル1F2号 に移転し活動を続けています。

「日本戦後を考えるシリーズ」は新たに「警察国家復活」を加え、一週間3万円+郵送料で貸し出しています。

Ⅵ　静岡平和資料館をつくる会は、戦後55年記念展示「戦争の記憶SHIZUOKA」を開催。6月20日~25日の間に3343名の方が来場、大盛況でした。今回の展示は市との共催が実現し、経費の一部負担や市社会教育課職員が受付や会場係に携わってくれました。

10月6日~12月17日まで「子供たちが見たホロコースト展」が行われます。

Ⅶ　朝鮮半島の緊張緩和が一気に進んでいます。その中で日韓・日朝交流史の博物館づくりを目指す運動が10年を迎えました。事務所は次の通りです。ご支援下さい

〒206-0802　東京都稲城市東長沼1086　稲城協会内　　TEL/FAX　042-378-5245

Ⅷ　青木書店より「新版　平和博物館・戦争資料館ガイドブック」が発行（2000,7,25）されました。編者は歴史教育者協議会で、日本国内110施設、海外11カ国40施設が紹介されています。

Ⅸ　「祈りの丘絵本美術館」が昨年6月にオープンしました。

　祈りの丘絵本美術館の所在地、長崎市南山手地区には、国宝大浦天主堂やグラバー園が並び、眼下に長崎港を眺めることができます。

　原爆を体験した長崎は、歴史に向き合って祈る町です。そして、絵本こそは、子どもの平和と幸福を祈る中から生まれました。これが「祈りの丘」の名前が生まれたゆえんです。

館長は川端　強さん　　開館時間10:00~17:30(入館は17:00まで)

休館日:毎週月曜日TEL　095-828-0716　　FAX 095-828-0786

Ⅹ　国立国会図書館の支部として2000年1月1日に国際子ども図書館が東京上野公園内にオープンしました。世界の児童書を集め、異文化理解に役立つものと期待されています。

11　杉原千畝氏の顕彰プレートが外務省に設置。

　第2次世界大戦中、ナチス・ドイツの迫害から逃れるユダヤ人難民に日本通過査証(ビザ)を発行し、約6000人の命を救った。元リトアニア領事代理の故杉原千畝氏(1900~86)は戦後外務省を解職させらていましたが、今回の措置ではじめて名誉が回復されました。

12　韓国のナヌムの家・日本軍「慰安婦」歴史館はハルモニたちの描いた絵のアメリカ巡回展を9月よりはじめています。日本での巡回展は来年になりそうです。開催希望のところは草の家までご連絡下さい。なお、ナヌムの家のスタッフより「なぜ日本の右傾化が進んでいるか」という質問があり、西森が返事を書きました。

13　高松市市民文化センター平和記念館は「高松空襲写真集」(2000,7,4刊)を発行しました。

14　「ピースデポ」(平和資料協同組合)の機関紙124号によると英法廷は、イギリスの反核運動団体の核兵器システムの破壊を有罪にできなかったこと、核廃絶へ向けた日本政府のリーダーシップを求める「核兵器廃絶2000年キャンペーン」に2000人目(9月7日)の賛同者を迎えたことを報じています。

　なお、英国のマザーフォーピースの代表ベリルさんが9月26日~29日まで草の家に来館。英国の平和運動について話をきき、親しく交流しました。

15　広島平和文化センターは「平和文化」138号を発行し、8月に開かれた国際シンポジウムの内容が紹介されています。

16　ピースおおさかでは「アンネ・フランク展~未来に向けての歴史の叫び」(4月8日~5月7日)、「平和の文化国際記念・ユネスコ世界写真展・共に生きる」(5月16日~6月25日)、「第6回アジアの子どもの絵展~

平和・人権・共生」(7月11日~7月23日)、「大田健一展Ⅱ~絵画で語る戦争の時代と平和~」(7月29日~9月3日)が行われ、11月1日~12月29日まで「大阪に残る戦争の傷あと展」が開催されます。